

平成28年度第3回くまもと市男女共同参画会議 議事録

- 1 日 時 平成29年2月15日（水） 15時～
- 2 場 所 男女共同参画センターはあもにい2階学習室
- 3 出席委員 9名（五十音順、敬称略）  
浅井 弘美、加島 裕士、越地 真一郎、澤田 道夫、谷 和彦、寺崎 拓、  
本田 幸恵、宮崎 佳子、八幡（谷口） 彩子（会長）
- 4 傍 聴 者 無し
- 5 会議次第
  - （1）開会
  - （2）議事
    - 1）熊本市女性の職業生活における活躍推進計画（仮称）（案）について
  - （3）報告事項
    - 1）はあもにい次期指定管理について
  - （4）その他
  - （5）閉会
- 6 会 議 録 以下のとおり

■議事1 熊本市女性の職業生活における活躍推進計画（仮称）（案）について、事務局より説明

（八幡会長）

ありがとうございます。

計画策定の背景の部分だったかと思いますが、この点について、市議会議員よりご意見を頂いたということで修正して頂いたということでした。

この文章から受けとる印象が恐らく変わられたかと思いますが、この点に関してはいかがでしょうか。ご意見など頂戴できればと思います。

（越地委員）

どういったところが、印象として変わったかという点について、もう一度説明して下さい。

（事務局）

本格的に人口減少や労働力減少に伴う労働力人口が減っているという部分について、熊本市も例外じゃない、その人口減少によって女性が働くことが必要であるかのような印象を受け、そのために計画を作成するような文章ではおかしいのではないですか、という意見でした。

従いまして、読む方によっては女性が労働人口不足の穴埋めのためにもっと働いたほ

うがよいというような印象を受ける文章は避け、男女共同参画基本計画の記載に合わせたような記載に変更いたしました。

(事務局)

付け加えますと、計画を策定する上で、いわゆる「人口減少・少子高齢化を迎え」といった言葉は、市が作成する様々な計画のお題目のようになっています。

意見を出された議員も、そのことに関しては理解するというをおっしゃったのですが、これに女性の活躍推進というものを掲げているということになると、これを念頭に入れて人口減少・少子高齢化に向けて、女性が穴埋めするというように聞こえてしまうので、これではいけないのではないかというご意見がありまして、なかには一般的な文言だからという意見もありましたが、審議会の皆さんにもう一度諮ってみてはどうかというところでした。

(八幡会長)

補足説明でしたが、皆様いかがでしょうか。

(越地委員)

掘り下げていけば、そういったニュアンスもありますが、どうでしょうか。

それがひとつと、様々な声を聞いて、反映させていくということは正しいと思いますが、議員からの声で変わったのかという部分は正直いってあります。

これが例えば、パブリックコメントである場合は、どのように反映しますか。

(事務局)

実は今回、市民局内の他部署も含め計3件パブリックコメントをおこないまして、パブリックコメントでの意見に基づき修正を加えた案件もございます。

仮にパブリックコメントでそのような意見が出た場合でも、そういった内容に捉えられる文章であって、変えることによってより良くなるならば、当然変更することもやぶさかでないと考えます。

(越地委員)

議員だから修正するといったことではなく、パブリックコメント等でも同様ということですね。修正された部分については、分かりやすく修正されていると思います。

(八幡会長)

ありがとうございました。折角ですので、他にご意見をお願い頂けますでしょうか。

(加島委員)

修正前の文章については、毎日のように課題として目にするようなところでして、どうにか良くなっていけばという気持ちもありますし、働く女性の視点から見たご意見もあることは十分に分かっております。

この文章の大前提をもとに物事をみれば、あってもいいのかなと思います。

(八幡会長)

ありがとうございます。他にご意見はありませんか。

(浅井委員)

学校においても人権教育をしております。

人権の感覚についてはとても払拭が難しく部分で、繰り返し重ねている所でございますが、人間の中にある感覚というものを大事にしていきたいと思います。

下の方に風土作りが必要とあります。

風土という言葉は、これと関連してくると思いますが、感じる部分は大事にし、社会的な風土作りに生かすという視点で考えるならば、「あらゆる」の部分に関しては削除の方がいいのかと思います。

小さいところですけど、中から基本計画からとってありますけど、若干文字が違うところがあるのかなと思いますので、修正されるとよいかと思います。

よろしく申し上げます。

(八幡会長)

ありがとうございます。

(谷委員)

計画の呼びかけは、熊本市民の方になりますかね。

より具体化して、分かりやすくしてありますので、いいかと思います。

(八幡会長)

はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

(寺崎委員)

私も元々の文章は、考えによっては漠然としていて、熊本市だけの問題じゃなく全国的な問題のように感じていて、訂正されたこの文章の方がより具体的な気がしていますので、この訂正でかまわないと思います。

(八幡会長)

はい、ありがとうございます。

本田委員、いかがでしょうか。

(本田委員)

訂正前には、意識改革の中で、どこが大事かと記載されていたので、私は訂正前の方が、分かりやすいという思いはあります。

(八幡会長)

はい、ありがとうございます。

(宮崎委員)

私も訂正前の方がいいかと思います。訂正後の文章は分かりにくく、長いので、全部理解するには、言葉的にも参画するなど耳慣れない言葉も入っているので、一般の市民として、読むときに敷居が高いというか、もう少し、分かり易い文章になればいいかと思います。

ここを読むだけで内容を理解するのが、なかなか厳しいのかなあと思ったりもしました。興味があって、読む人はいいと思いますが、なかなかそういう意識がない人に向けては難しいかと思いました。

(八幡会長)

ありがとうございます。澤田委員お願いします。

(澤田委員)

元々の文章が、労働力人口が減っていったら労働力が不足するというような読み方が出来るかとなると、確かにそのとおりだと思います。

読みようによっては、労働力が足りなくなるから女性を使う必要があるように捉えかねないということですが、そうすると、この計画自体はその自己実現として、社会環境として誰もが自己実現を通して働く、ということを目指していると思います。

そのように労力が足りないから使う必要があると、捉えられかねないのでという懸念は確かにありますので、そこはご審議頂いたということ踏まえて、変えていいと思います。

その点を踏まえて、この修正後の文章について少し長いというご指摘もありましたので、そこは見直して頂くとして、その下「そのような中」の部分ですが、「熊本地震によって生活環境の劇的な変化により、これからの生活に不安を抱える市民が多数いる中、性別・年齢を問わず、誰もが、力を合わせていくためにはこれまで以上に・・・」など、詰めていくと思いますが、このところが、何か取って付けたような感じがします。

熊本市女性の職業生活における活躍推進計画というのは、熊本市であるからつくるといって、そういう訳ではないので、文言として加え入れられていると思いますが、今回は取って付けたようになっていて、それでは熊本市でなかったらいらなかったのか、そういう話にもなってくる。

そうでもないだろうという気もいたしまして、その部分も先程から少し悩んでいたところでした。

その上の部分については、労働力が少なくなれば女性を使わなければならないと捉えられかねない。

削除するなり、それでは熊本地震がなかったらこの計画はいらなかったのではないかと捉えられかねない所を、表現が工夫できないのかと思っていたところでした。

(八幡会長)

はい、ありがとうございます。

それぞれのご意見について、この後、修正案について委員の皆さまに工夫して頂きたいと思います。

私からの最終提案なのですが、今回修正された赤字の部分というのは、男女共同参画をいかに推進するかと、熊本市の基本計画の中にある文言があるだけで、やはりある程度、普遍的で、やわらかい、だけれども訂正があるから具体的に把握するというよう

な、ご意見もある文言もあります。

確かに、議会から出されたような労働力の穴埋めといった印象を受ける表現に感じる  
といった部分については、そういう印象は否めないのかなと思うのですが、これまでの、  
男女共同参画に関する基本的な取組に、いかに職業生活における女性の活躍を推進する  
というようなことに上乘せが必要であり、切迫して労働環境の整備が必要だと思ってい  
ます。

見出しのような切実感をもって、訴えられていたのかと。

逆に、そここのところはいかがなものかというご意見があるかもしれないと思いながら  
この修正案をみせていただいたところですよ。

修正案自体は、非常に柔らかくということですので、この文自体は、長いというご指  
摘はありますが、私自身は反対ではありませんし、穴埋め的な表現がいかがかというご  
意見もありますが、私は修正後の案に賛成をさせて頂こうと思います。

いかがでしょうか。

(加島委員)

この問題を経済として捉えるのか、労働問題として捉えるのか、人権問題として捉え  
るのかで、視点が全く変わって来ると思いますが。

(八幡会長)

はい、逆にこれを変えたことによって、繋がが悪くなるのではないのかという意見も  
あったかと思えます。

これといった、具体的な修正案がもしこの場で出れば、その点も含めさせて頂き、採  
決とさせて頂きたいと思えます。

今のところ具体的な修正案はでておりませんので、事務局の方からご提案頂いた案を、  
最終的に採用するかご判断を頂きたいと思えますが、いかがでしょうか。

それでは、委員の皆さまのご了承を頂けるかという点に関しまして、採決させて頂い  
てよろしいでしょうか。

では、こちらの案、修正案も含めて、熊本市女性の職業生活における活躍推進計画（仮  
称）（案）について賛成いただける委員の方、恐れ入りますが、挙手をお願いいたします。

はい、ありがとうございます。

全会一致ということで、事務局の方に、準備をしていただきたいと思います。

ありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。

委員の皆さまの色々なご意見を伺いながら、これを修正するときに局長まで含めて議  
論をしてきた中で、我々も皆さまと同じような思いを持ちながら、修正してまいりまし  
た。

これは、住民投票だろうと、色んな考え方、価値観の違いも出てくると思いますが、

それを最終的に落ち着かせたのは、やはり本市男女共同参画基本計画、これを基本にせざるを得ないだろうというところでごさいます、修正案のような形になりました。

その中の基本計画の文言を引用しておりますので、少し長くなったというところは気づきながらも、私どもも何ともし難いところがあったところです。

付け加えさせていただきますと、基本計画の中の「生」かすという言葉は、我々が使うときは、「活」きるという活用の活は使わない。

基本計画の中で、「活」を使っているものですから、これもそのままにしておりましたが、ここは基本計画に合わせたところで正誤させていただきました。

(八幡会長)

はい、ありがとうございました。

用意して頂いた議事は、これのみということによろしかったでしょうか。

それではですね、次の3番目の報告事項(1)に移らせて頂きます。

はあもにい次期指定管理について、事務局の方からお願いします。

#### ■報告事項(1) はあもにい次期指定管理について、事務局より説明

(八幡会長)

いかがでしょうか。

指定管理の施設は、ここ以外にも、森都心プラザや国際交流会館などありますね。

(事務局)

指定管理施設は300施設ほどあり、地域コミュニティセンターも全て指定管理です。

通常の契約と決定的に違うところは、指定管理制度の場合、随意契約が一番安いところをお願いするのではなく、金額よりも運営管理の手腕を優先しております、そちらの方が、点数ウエイトは高くございます。

これも時代の変遷で変わっていき、以前は評価が金額とノウハウで同等だったのですが、現在は金額2でノウハウが8という評価基準になっています。以前は入札して、値段が安いところに委託しておりましたが、それをよりよい運営をして頂き、しかも、金額もある程度こちらで定めるようになっています。

(越地委員)

その前に、次の5年間について、これまでを踏まえ、例えばセールスポイントや、次期5年間はこのような運営にチャレンジしたいと思っていることなどをお聴きした方が、幅広い意見がでるかと思いますが。

(八幡会長)

はあもにいの藤井館長にも出席いただいておりますので、回答をお願いします。

(藤井館長よりはあもにい事業について説明)

(八幡会長)

ありがとうございました。

具体的にお話し頂きましたので、ご意見があればお願いします。

(宮崎委員)

私の話になりますが、私は熊本市民になりまして、14年目になります。

本当に熊本市の男女共同参画というものが、全く頭になくて、「はあもにい」の建物も全く知りませんでした。

一昨年、チラシが入っておりましたミモザフェスティバルに初めて友人と足を運んだところから、こちらの活動を知ることができました。

また、昨年ウィメンズカレッジに参加させて頂き、そこで私も知識といいますか、色々なことを教えて頂きました。

そのような経緯から、この参画会議に参加させて頂いており、充実しています。

昨年の12月14日になりますが、2016国際女性会議というものが東京でありまして、安倍総理が女性社会を実現するための取り組みをおっしゃっていました。

私も参加出来そうな機会を得ましたが、体調が悪くて行けなかったのですが、そういったものに参加させてもらって、地域の女性、この活動や活躍されている方も色々な自分が伝えられる熊本のこととか、全国に知ってもらえたらいいかと思いました。

後輩というか若い人たちが、もっとはあもにいや熊本市の女性の活躍の施策を知る機会といったものに参加して、社会を良く知るといふふうにとってもらえると嬉しいなど思いました。

(八幡会長)

ありがとうございました。

本田委員、いかがでしょうか。

(本田委員)

今の藤井館長の話聞いて、地震が起きたことで、今まで埋もれていたことが出てきて、行動というものを大きく変わられたのかなと思いました。

今回のことで館長は、地震の時に思われたこととして、熊本の女性は、その時点では繋がりが薄いと感じたという部分が印象に残りました。

それをどういう時に具体的に感じられたのか、それを繋げていくために、私たちは、一市民として何をすればいいのか、ご意見頂ければありがたいです。

(藤井館長)

女性の団体は、それぞれの活動で終わり、横に繋ぐ中間組織がなかったことがあります。

それぞれ、活動していますが、そこで途切れてしまうので、もし横に広く繋がってれば、もっと大きなことができたのではないかと、思った場面が沢山ありました。

また、県外からは支援はしたいけど、どこに支援したらいいかわからないというよう

な問合せもありました。

これまで、団体は沢山あるけど、自分達での支援など、そこで活動が終わってしまっていたのだなど。

これからは、援助を調査しながら、どういった所で、繋がっていけるのかというようなことを少し明らかにして、そういう人たちが、こんな機会を沢山つくっていきたいと思えるような、そういった拠点に「はあもにい」がなれば良いと思っています。

今までは「はあもにいフェスタ」というイベントでイメージするだけのネットワークだったので、それを、もう少し変えていきたいという考えを持ちまして、まずは待つだけでなく、私たちのほうから声をかけていきたいと思います。

(八幡会長)

寺崎委員お願いします。

(寺崎委員)

「はあもにい」の知名度を上げるというお話があったのですが、この「はあもにい」という名前が変わったのは指定管理者からですか。

1～2年前ですが、市のタクシーの運転手の方に「熊本市男女共同参画センターはあもにい」が通じなかったのですよねっておっしゃっていたんです。

だから、まだまだ昔の方というかは、以前の「女性センター」というイメージが強いですね。

(事務局)

最初は、婦人会館です。

(寺崎委員)

はい、婦人会館でしたね。

(事務局)

ええ、それで婦人という言葉は見直す必要があるということで、総合女性センターに。

(寺崎委員)

女性センターといったら通じるという話を聞いて思い出したのですが、まだまだ知名度を上げていかないといけないと思いますので、是非がんばっていただきたい。

こういった「ミモザフェスティバル」や、「はあもにいフェスティバル」をされていますので、知らなかった人が、これを機会に来場するというのは良いことだと思いますので、是非、知名度を上げていただきたいと思います。

そしてもうひとつ、共同企業体というのは3社ですが、前から心配していたのが、3社集まると、それぞれ社風が違うので、上手くいくのかと心配していましたが、5年もやっていますので、もう慣れていると思うのですが、そのあたりの3社間の連携など説明して頂ければと思います。

(藤井館長)

はい、おっしゃるとおり、社風が全然違いましたので、最初のスタートはかなり、混

乱した時もありました。

向いている方向は皆一緒なので、一つひとつを解決して、課題として取り組んで来たというところと、5年経つとそういうこともあまり気にならないというか、特に3社がそれぞれの得意分野を活かしながら、相乗効果を生み出し、考えながら走っていくということでやっています。

(寺崎委員)

ありがとうございます。

次期5年間も決定しましたので、これからの5年間がんばってください。

私もイベントなどに楽しく参加させてもらっています。

よろしくをお願いします。

(八幡会長)

ありがとうございました。

他にございますか。

(谷委員)

地震の前後で何か大きな転機があったのだなという印象を受けました。

それと、ソフト面でいうと、コミュニケーションと思うのですが、先程の声掛けということがありますけど、我々も気をつけなければという認識をしておりますので、一人だけにならず、誰かに声を掛けて頂くことで、活動というのに広がりが出てくるのではないかと思います。

(八幡会長)

はい、浅井委員をお願いします。

(浅井委員)

教職員で研修を行う際に活用させて頂いており、感謝申し上げます。

「はあもにい」というと、どこのこと？と言う声がありましたが、やはり、ひとつ前のことかなと感覚的には感じていたところですよ。

使う度に、この施設がどういうものであるのかっていう狙いが出来ている。

やはり、男女共同参画社会をつくっていかねばならないという意識をつくる気がします。

となると、もっともっと使っていく機会を、教職員の中でも利用していかねばならないのではないかとこのように思いました。

私たち、女性管理職の勉強も女性だけで、その時もどこですかとなった時、やはりここでしょうよということで、使わせて頂いておりますので、近いから、また使うから、というところで、しっかり啓発していきたいと思います。

館長は5年後の姿を目指してとおっしゃいましたので、5年後はどのようなお姿を目指していらっしゃるのか、お伺いしたいと思います。

(藤井館長)

はい、私も就任のときには、大きな目標ではあるなと思いましたが、熊本市における女性総活躍社会の情報と活動の拠点になるというようなことを頂きました。

本当に市民の方の拠り所になる、そういった会館になるように誇れるように頑張っていきたいと思います。

(加島委員)

2期目、おめでとうございます。

私も3年前まで指定管理に携わっていましたので、嬉しく思っております。

震災の時に情報が色々入ってきて対応して頂きありがとうございます。

ただ、私が言いたいことは、さっき館長が言っていました横の繋がりが上手くいかなかったとおっしゃいましたが、意外と、動いていた人たちがいたなと感じていました。

私も阪神であったり、東日本であったり、見てきたつもりで、見えていなかったものがたくさんありました。

そのようなことを、今回の震災で、お年寄り、障がいを持った方、子どもさんを抱えた方々が、なかなか避難所へいけなかったところで、自主避難をなさった人への対応とか、日頃からNPOと行政の方が上手く繋がって行けばいいなと思っておりました。

そのひとつのコネクターとなるべく、「はあもにい」が担っていただければと思っております。

推進計画の中の削られたところ部分で、経営者協会としては、女性の活躍推進というようなことで、様々な取り組みはやっているところではありますが、是非、そういう女性が、経済的でも、今言った人権の問題でも、ここが拠点となってやってくれれば喜ばしいし、経営者協会としても出来るだけ協力したいと思いますので、よろしく願います。

(八幡会長)

はい、ありがとうございました。

越地委員、お願い致します。

(越地委員)

それでは、2点お願いします。

1つは、既成概念を捨てることですね。

男女共同参画も言われて相当経っていますが、チャレンジや色々な工夫もされていると思いますが、ひとつの枠から抜けきらない所があるのではないかと感じます。

特に、市から委託といたら、枠を意識しその枠の中でやっているという印象がある。先程の議員のお話もありましたが、議員からお言葉・小言はいいことかと思いますが、既成概念を打破し、是非やってほしいと思います。

5年後というのは次の指定管理者のゴールですが、10年後、20年後を視野に入れた、男女共同参画のあり方というものもスタートしてほしい。

おそらく、もう10年後、20年後は、加速的に変化するはずですから、しっかりし

ないといけないのですけども、それを見据えた動きですね、場を見据えて発揮してほしいと思います。

もうひとつは、この実践にあたっては、活動に参加された方のフォローにも注視していかなければならないと思っています。

例えば、色んな講座をやりますね、参加したいノウハウを学び、その人たちが、1年後2年後どうなったか。

そういうのを、フォローをしてやっていく。

今やっておられるかもしれませんが、よりそれを強化していくことで、本質の部分も掴めますし、逆にあの時いたんだけど、全然活かせていない、何が課題であるかというのが当然見えてくると思います。

(八幡会長)

ありがとうございました。

それでは、澤田委員お願い致します。

(澤田委員)

はい、これまでの5年間の取組について述べて頂きまして、非常に色々されている人材育成の部分で、例えば、ウィメンズカレッジですとか、熊本市にどんどん人材を配していっていくということは、凄くいいと思います。

それと、私がものすごくいいと思ったのが、それが今年度された、ここに報告書があります、避難所キャラバンですね。

熊本市において、このキャラバンの報告書にも、書いてありますが、避難所運営において、男女共同参画の視点がどこまで取り入れられていたのか、という話ですよ。

前震の翌日に内閣府から通知が来て、避難所名や位置・組織において男女共同参画の資料を取り入れるようにとありましたが、避難所運営の自治的組織で男性中心の運営だったのが、東日本大震災における反省ですね。

それがだいぶん批判された訳ですけど、熊本県においては男性中心どころか男性もいないではないかという話ですね。

全て行政がやっていた。

逆に行政がというと、行政任せになってしまうのではなくて、男女共同参画の指摘をする人がいなくなってしまう。

行政だから、やっていこうという話になってしまいます。

そこを、熊本市においては、「はあもにい」が避難所キャラバンをやってチェックしてくれると思い、すごくいいと思いました。

こういう視点も取り入れて、やって頂いたということが、すごく今期の指定管理の成果としては、非常に熱かっただと感じております。

2期以降は指定管理の話も先程色々話がでましたので、私から追加すると、どんどん人材を輩出していっていますので、今度は「はあもにい」の中の人材を自分達の運営を

担う人材をどんどん育てていく。

育てた人材を取り込んでも構いませんので、活動を広げていくためには、それを広げて行くための人材、その人材育成を行ってほしいという点が一点。

その後の具体的な話になりますが、次期以降、研究事業をやるところに書いてあります。

どうも復興事業というのは、どちらかというと男性雇用が中心になるのではと思えて、女性の雇用みたいなのがないので、震災後に伸びているのかいないのか、どういうところが変わっているのか、そういうのが見えてこない。

工事に関する雇用が好調という話は聞きますが、その中で本当は女性の雇用が伸びたか、そういうのは分かりませんよね。

それも調べて頂きたいと思っております。

(八幡会長)

はい、皆さまから貴重なご意見、沢山頂きまして、ありがとうございます。

私も、はあもにい運営審議会に関わらせて頂いております、意見をまとめさせて頂くと、これまでの5年間の実績と、これからの期待が込められたご意見だったかと思えます。

これまでの積み重ねの上に、次の5年を積み上げられるといいと思っているところです。

これからのますますの充実をお願いします。

それでは、その他に移りますが、事務局から何かございますか。

(事務局)

お手元の資料には、ご用意しておりませんが、次年度に向けまして、事業計画(案)の方を簡単ではございますけど、ご説明をさせて頂きたいと思えます。

その後、子ども支援課に来て頂いておりますので、子ども支援課の方からも、ご説明さし上げます。

(次年度事業計画及び子育て支援優良企業について説明)

(八幡会長)

ありがとうございました。

来年度の事業と子育て支援優良企業のご紹介でした。

こちらの事例集の方も、すでにこちらの会議で配布させていただいてあったかと思えますが、具体的に、直接関わられた担当の方から丁寧にご説明いただきました。

女性の活躍を支える、職場環境を整備するというのが、非常に重要と思えますが、どなたかご意見、ご質問をいただけると、ありがたく存じますが、どうでしょう。

(澤田委員)

今回の優良企業認定ですが、一度認定されたら、これから先も認定されていくのか、それとも認定後の取組、認定されたことを、励みにもっと高みを目指すような、そうい

う仕組みがあるのか、お聞かせ下さい。

(子ども支援課)

年度ごとの認定を考えておりまして、一年度間の期間となっております。

期間につきましては、1年となりますけど、継続的に得点が高ければ、次の年度も認定は、可能となります。

さらに、継続していつて次の年度ということですが、これは、まだ制度が2年目ということで、制度をこのまま継続、こういった認定後、そのままでいいのか、その辺色々ご意見を頂きながら、改正し考えさせて頂ければと思います。

(八幡会長)

よろしいでしょうか。

(澤田委員)

殿堂入りのようなものはどうでしょうか。

シールのようなものを貼るのが、外向けにもいいのかもしれませんが。

(子ども支援課)

そこも含めて、認定マークなどございますが、次の機会にサンプルを示させて頂いて、そういったマークを使うことも含めて、参考にさせていただきます。

(八幡会長)

少し補足させていただきます。

今、話題に出ております、国の認定制度のくろみんや女性活躍推進法の認定でえるぼしと県の方の子育て応援団「緑・青・赤」に対応する、熊本市版です。

これは、非常に真面目な制度で、「厳密な」アンケート・現地調査を踏まえ、得点化を積み重ねていつて、得点が高い所から企業表彰していく制度です。

それだけに、認定までに時間を要するところもあるのかと思っているところです。

他にはございませんでしょうか。

それでは本日予定されていた議事は、これで終了とさせていただきます。

(事務局)

八幡会長、ありがとうございました

また、委員の皆さまには、貴重なご意見を賜りまして、本当にありがとうございました。

それでは、これもちまして、第3回くまもと市男女共同参画会議を終了させていただきます。